

## 自然からの秋の贈り物

安城中部小学校長 稲留 雄一

ミニ明治用水の南側の岩の上で、「よもぎやさん」を開いている子どもたちがいました。何人かで手分けして、「収穫」をして岩の上に置かれています。尋ねてみると「けがに効く」のだそうです。独特のあの香りが手のひらに広がっていました。私も好きな香りなので、ちょっぴり幸せになりました。

正門の東側の岩の上には、東ねた緑色の松の葉にクロガネモチの真っ赤な実が数個添えられていました。持ち主はわかりませんでした。お供え物のようにも、料理のようにも見えました。秋の実りは子どもたちの絶好の学びの機会となっています。

11月18日の全校朝の会で、「秋の自然」をテーマに数枚の写真を用意して話をしました。黄色く色づいた「イチョウの葉」。中部小学校にはあまり大きなイチョウはありませんが、黄色が日増しに鮮やかになってきました。正門横の「ナンキンハゼ」も一本の木に色とりどりの葉をつけ、見事な極彩色（ごくさいしき）の着物をまとっているようにも見えます。緑色の葉が赤色や黄色に微妙に変化していく様子は、この時期にしか味わえない自然の美しさ、神秘と言えるのではないのでしょうか。もう一つ紹介したのが「カエデ」の種です。トンボの羽のような形の一端に実をつけています。実が熟すと木から離れてくるくと舞い降りてきます。指先ほどの大きさのそれは、人工の精巧なプロペラよりも、軽くしなやかで美しく見えます。



その日の休み時間に、子どもたちが手に手にナンキンハゼの葉を持って、私に自慢げに見せてくれました。かえでの種をもって少し高いところに上がり、「見て！見て！」と舞い落ちる種の美しい動きを、自分のことのように紹介してくれる子どももいました。クロガネモチの実で摘んでいるときに、つぶしてしまった子もいました。真っ赤なクロガネモチの中身の色は……。何色だと思いますか？

一時的なことかもしれませんが、子どもたちが校内の身近な自然に目を近づけてじっと見入ったり、実際の葉の美しさやつくりの不思議さに触れたりすることは、やはり尊いことだと感じました。タブレットの写真や映像で知る場合とは明らかに感性の育ちが違ってくると思います。まさに、自然からの秋の贈り物だと思いました。私たちの近くにも、まだ自然はたくさんあります。安城中部小学校の豊かな自然に感謝です。

### ※名札について

安城中部小学校には、1年生以外は名札がありません。校内で子どもたちに声をかけてあげようと思ったときに、名前を呼んで伝えてあげたいと思うことが何度もありました。写真や名簿を見て覚えようと努力はしていますが、なかなか覚えきれませんし、とっさに出てこないこともあります。教職員も他学年の児童と接することもたくさんあります。

もちろん校内のみの着用を想定しています。下校時には外して教室保管し、登校したら学校で着用するようにしたいと思っています。安全ピンとクリップがセットになっているものを使用しても、大切な洋服に穴が開いてしまう心配もありますが、いかがでしょうか。できれば、来年度から着用できたらと考えています。ぜひご意見をお聞かせください。連絡帳や学校へのメール、お電話でも結構です。どうぞよろしくお願いいたします。

